

努力賞
(子どもの部)

「おれ、よびだしになる」

荒川区立峡田小学校二年

長江 星恵子

やなぎ田先生、こんにちは。

わたしは、「おれ、よびだしになる」というお話をえらびました。

そのりゆうは、この本の男の子が、きんちようしている顔で、せんすをひろげているのが、ちよつと気になって、この本を読みたくなりました。

このお話は、男の子が、すもうのテレビが大すきで、よく見ていました。その中で、一番すきだったのは、よびだしさんです。自分もよびだしさんにな

るために、毎日れんしゅうしていました。やっと、はつどひようの日になりましたが、きんちようしていて、うまくいけませんでした。でも、毎日くりかえしてれんしゅうして、一年後、りっぱなよびだしさんになりました。

わたしは、このお話を読んで男の子がはつどひようの日に、どひようの上にあがって、ふるえて、せんすが、うまくひらかなくて、せんぱいのような声がでなかったところが心にのこりました。

わたしの同じような体験は、自分も、男の子と同じような思いがしました。一年生の時に、おこなわれた音楽会では、先生の話をよく聞いて、みんなと大きな声で歌いました。また、家では、インターネットでしらべて、何でもれんしゅうしました。けれど、本番では、きんちようして、うまくえんぎする

ことができませんでした。

このお話を読んで学んだことは、毎日つづけてがんばれば、ぜったいいつか、せいこうできるとしんじています。ピアノのはっぴょう会では、まず、がくふを読めるようになってから、かたてずつれんしゅうして、りょう手であわせてれんしゅうして、がんばっていっぱいれんしゅうしました。そして、さいごにがくふを見なくても、すらすらひけるように、ぜん力でれんしゅうしました。本番では、自分にとっていままでの中で一番いいえんそうができました。そして、会場のみなさまから大きなはく手をもらえて、うれしかったです。これから、何ごとも本気でちょうせんしてみたいです。